

次世代の森づくりを担う 人材育成事業



「里山の四季」育成体験事業

福島県小野町



事業概要

子どもたち、学生、子どもを持つ親世代に対して地域の自然環境の大切さを体験してもらうため、四季を通じての森林作業と山の恵みを舌で感じてもらうことを目的としている。主な活動は以下のとおり。①夏：植樹した木々に追肥作業、ブルーベリー収穫、米粉のパン作り。②秋：雑木の伐採、玉切り、コースター作り、栗拾い、キノコの収穫体験とキノコの判定会、栗ご飯とキノコ汁作り。③冬：薪割り、キノコの植菌作業、薪を燃料としてもち米をふかして餅つき体験・餅の試食、福島復興を応援する新しい八重桜の品種「はるか」の植樹。④春：植樹した苗木の周りの下刈り作業、山菜の収穫と天ぷら作り、そば打ち体験。

事業成果

将来的に花や実のなる木々を植樹したことにより、里山の恵みを体験できる公園にしたいと考えようになった。これからも別の季節で咲く花木の植樹を継続していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・四季を通しての事業は新しいと感じた。(他団体の理事)
- ・コロナ禍を脱しないと人を集められない。(事務局)

参加者の声

- ・とにかく楽しかった。みんなで一緒に作るお昼ご飯は特に美味しかった。
- ・四季の山を体験できて良かった。
- ・植樹した「はるか」の花が咲くことを楽しみにしている。



新しい八重桜の品種「はるか」を植樹



ブルーベリーの収穫（「里山の四季」夏）



栗ご飯作り（「里山の四季」秋）



薪割り体験（「里山の四季」冬）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2ha
 植付本数：40本
 樹勢回復：100本
 下刈面積：2ha
 間伐面積：0.5ha
 「里山の四季」育成体験：7回

参加者数

県内：302人
 計：302人

樹種

サクラ

『創』美しいもり!!プロジェクト

群馬県みどり市、前橋市、高崎市、東京都世田谷区



事業概要

若いインフルエンサー・大学生など次世代を担う若者向けに、SDGs目標達成のためのプログラム開発及び社会実験を行い、SDGs活動や映像創作を通して将来の森林（もり・やま・しんりん）づくりのリーダー育成を目指す。また、創作された映像を基に、「美しいもりが、人・環境・豊かさの調和のとれた地域が創生・再生された社会=SDGsが達成された社会に寄与する」ことを前提とした問題意識の共有、実績の共有、自分ごと化を進めるためのブラッシュアップを行う。

事業成果

参加者創作映像からは、「人と森」、「人と自然」、「人と環境」が調和した未来を映像化した人も多く、これは実際に現場で「生業」として森林と関わる人との交流によるイノベーション、また、SDGs活動の成果であると考えている。また、ブラッシュアップに当たっては、人（ボランティア活動を行

う）との繋がりの強化や、森との繋がりの強化という点では参加いただいた皆さんがそれぞれ一歩踏み出すことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・研修を通して講師陣と参加者の良い関係が築けたこと、特に林業を生業としている講師陣との交流は参加者に非常に良い影響があったと思う。また、去年の経験者サポート参加者のおかげでよりスムーズに事業を実施できた。（主催者）

参加者の声

- ・映像制作、チェーンソーなどやること全てが初めての経験で、内容が充実していて参加した3日間がすごく早く感じた。動画編集も言葉選びが難しくて長い時間いろいろと考えて、最後に「美しいもり」とはについて伝わるように言葉を選んでいく工程が楽しく勉強になった。（参加者）



現地研修。チェーンソー体験研修



現地研修。映像制作を通して美しいもりづくりを探索



現地研修。創作映像の発表



美しいもりと次世代の森づくり、美しさがつむぐ未来のカタチをテーマに基調講演とディスカッションを開催

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：20～30本（移植）
研修内容：

SDGsを深く理解するための映像制作、SDGs講義、美しいもり、SDGsへの理解と発信

参加者数

県内：81人
県外：181人
計：262人

森林ボランティア青年リーダー養成講座(森林・里山ボランティア入門講座)

東京都青梅市、奥多摩町、京都府亀岡市、兵庫県宍粟市、香川県さぬき市、丸亀市、まんのう町、徳島県三好市他



事業概要

体験から一歩進んで、森林ボランティア活動に継続して関わる若き担い手を育てることを目的とする。主な活動は、東京、関西、四国3カ所での18歳～40歳代を対象とした講座の実施で、それぞれ5回連続の講座を実施する。

第1回：オリエンテーション、レクチャーなど、第2回～第4回：道具の使い方、間伐など人工林の整備、雑木林の整備、竹林整備など、第5回：振り返りなど

事業成果

東京では23期(23年)、関西では15期(15年)、四国では5期(5年)にわたって講座を実施しており、これまでに548名が参加した。卒業生達は東京では奥多摩町、関西では京都・亀岡市、兵庫・宍粟市で継続した森林保全活動などを実施している。また、森林ボランティア活動のリーダーを担える人材として成長したメンバーもいる。

今年度は新たに32名が参加し、森林・林業・農山村につ

いて理解するとともに、森林保全活動に参加する若者を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・若い人が多く、うらやましい。ボランティアで関わる若者が多くなってくれば、林業も変わってくると思う。もともと林学をやっていた人では絶対に出てこないような発想があるような気がして、期待したい。(関西講座の指導をお願いしているNPO関係者)

参加者の声

- ・自分自身が変化していくこと、微力でも社会や環境に影響を与えていること、この変化が少しでも本質的な人々の豊かさに繋がることを願って、活動をしていきたい。(関西講座参加者)
- ・森林ボランティアを通して間伐、枝打ち、植栽に参加させていただきたい。森の大切さを後世に伝えることが大切だと感じた。(四国講座参加者)



道具の使い方の講習(東京都奥多摩町)



竹林整備(香川県丸亀市)



間伐作業(京都府亀岡市)



関西講座での振り返り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
除伐面積：1.5ha
間伐面積：1.5ha

参加者数

県内：32人
計：32人

樹種

クヌギ

人工林の生物多様性保全活動のモデル化

千葉県山武市



事業概要

生産林としての価値が低下した放置人工林では、林内が暗く発育が良くない細い木々が密集地帯になっており、斜光のない森では植物が育ちにくく、生息する生物が乏しい人工林となっている。そのため健全な人工林の育成と人の手を加えることによる生物多様性に富んだ森づくりに着目し、環境改善の方法をモデル化することを目的とする。

事業成果

専門家を招き、林内の動植物の調査や調査に基づいた生物保護対策を実施した。昨年に引き続き、人工林管理や生物多様性保護を継続し、ボランティア参加者を増やした。新規参加者へは山武市のブランドであるサンプスギの紹介や人工林育成の意義、林内と溜池を観察し、生物多様性の尊さを伝え、次世代の環境保全を担う人材育成を行った。

専門家とボランティアが協力した溜池周辺の動植物調査では、数年前に発見されたトウキョウサンショウウオは発

見されず、在来種のシュレーゲルアオガエルやタガメなど水生昆虫が見つかったほか、外来種のアメ리카ザリガニが発見された。外来種による在来種の生息が脅かされている可能性が高く、このままでは生態系が変化してしまうため、次年度は専門家指導のもと在来種保護を実施したい。また、溜池の水位が下がっており湿地帯周辺の乾燥化が進んでいる可能性があり、土流の流出防止や葦植物草刈などを検討したい。

事業をよく知る関係者の声

- ・事前打ち合わせをもう少し早めに段取り、決めてほしい。活動目的や活動を行う姿勢はとても共感しているので、頑張ってほしい。(専門家)

参加者の声

- ・学校や日常では自然にふれあえない。貴重な経験ができた。(大学生)
- ・心地良い汗がかけて良い運動になった。(60代男性)



植樹活動



植樹会集合写真



湿地整備



伐採作業(チェーンソー使用)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：175本
下刈面積：1.3ha
除伐面積：0.1ha
間伐面積：0.4ha

参加者数

県内：99人
県外：145人
計：244人

樹種

クヌギ、コナラなど

気候変動対策！土地本来の森づくり体験教育

東京都大田区、品川区ほか



事業概要

次世代教育事業として森づくりの大切さを伝えるために様々なイベント・講座の開催を通して、森の大切さと森を大切に作る照葉樹林文化をも継承することを目的とする。主な活動は次のとおり。①小学校での学校環境保全林再生プロジェクト、②小学校での森林の役割、土壌生物講座など、③企業に対する次世代教育として植樹祭など、④実働型次世代育成事業として森林再生の実践者を次世代へ継承する「森林再生指導員認定制度」の実施。

事業成果

前年度までに森林再生指導員の人数が格段に増員できたことにより、次世代育成事業の活動範囲を広げることが可能となった。小学校への関わり、企業の植樹祭の実施は、運営をサポートできる森林再生指導員の増員による。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後も森林再生指導員の人員拡充は引き続き行い、同時にスキルレベルの向上を図る。現状では、森林再生指導員はサポート役に留まっており、レベルを向上させることで、他地域への派生及びより多くの時間と人員を次世代育成事業へと結びつけることができると考える。

参加者の声

- ・第1回の授業「森への必要性への理解」では、木々が盾となって災害から人々を守っていること、その土地に合った木々を植えることが大切であること等、多くのことを子どもたちは学び取った。(小学校教諭)
- ・植樹リーダーとして事前研修を受け、実際に参加者に苗木の植え方をレクチャーしたのは初めてだった。多くの方々の事前準備を考えると、大切に苗木を植える気持ちが強くなり、当日は無我夢中でレクチャーしながら苗木を植えていた。(植樹リーダー)



小学校での植樹



小学校での森の講座



森林再生指導員研修の講義の様子



リーダートレーニングの風景

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：256㎡

植付本数：1,430本

森林資源活用

(枝で粗染づくり)：60m

再資源化(マルチング用藁)：680束

再資源化(使用済み活性炭)：100kg

参加者数

県内：120人

県外：188人

計：308人

樹種

潜在自然植生種

都市の里山資源の活用推進事業

神奈川県横浜市



事業概要

都市の里山保全活動で産出する間伐材や伐木材を有効活用することで、持続的な里山保全及びその活動を推進することを目的とする。今年度は、間伐材の活用手段として一般の参加者を対象としたグリーンウッドワーク研修、研修参加者の自主活動となるワークショップ、また、ワークショップの指導や今後の研修会の担い手育成のための指導者養成講座を実施する。

このグリーンウッドワークで使用する材料は、当該団体の定例活動日（第2、第4日曜日）で樹林地保全の結果として産出する間伐材を活用する。

事業成果

過年度に、里山保全に関する技術講習会を実施し、団体として安全に里山保全活動を行う技術と体制を整えた。里山保全活動で産出する里山資源活用の検討を開始し、グリーンウッドワークによる生木の活用技術の取得した。今後

この技術を生かした講習会の開催に向けた準備を行うことができた（道具の整備、講習方法の習得）。今年度、ワークショップ参加者が自主活動を始めるとともに、団体内での指導者養成を行ったことで、次年度以降、自立的に活動を進める態勢を整えることができたと考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年度の活動を通して、グリーンウッドワークショップ運営の仕組みづくり、指導者の育成が行われたことで、資源活用の活動が確立するとともに、次年度以降の事業の自立化の基盤が整ったことは成果だったと考える。（理事）

参加者の声

- ・初めてグリーンウッドワークでヘラを作ったが楽しかった。（参加者）
- ・箸は作りやすかった。技術を向上させてスプーンを作れるようになりたい。（参加者）



間伐作業



グリーンウッドワーク指導者養成講座



グリーンウッドワークのワークショップ



グリーンウッドワークのワークショップで参加者が製作

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.4ha
除伐面積：5.4ha
間伐面積：5.4ha

参加者数

グリーンウッドワーク
指導者養成講座：34人
ワークショップ：49人
森林整備：335人
計：418人

次世代環境リーダー育成 森林ワークキャンプ

青森県鰺ヶ沢町、福島県いわき市、栃木県益子町、茂木町、東京都渋谷区、三重県名張市、大阪府富田林市、高知県大川村



事業概要

森林保全活動を通じて、学生と地域住民をつなぎ、森林保全への意識と行動をともに高め、交流や連携を生み出す。主な活動は以下の通り。①全国6カ所で10事業、7～6月に7～14日間(計77日間)、間伐・下刈り・歩道作り・植樹等の森林保全ワークキャンプ(合宿型ボランティア活動)の実施。②リーダー訓練合宿に合わせ、成果報告会や事業のプロモーションイベントを4回開催(東京3回、大阪1回)。③11月にこの事業の対象になった受入団体代表に呼びかけ、大阪府大阪市で「森林ボランティア開催地サミット」を実施。こうしたワークキャンプが新しい活動モデルとして全国各地に広がり、また、参加したボランティアや住民が保全活動の新たな担い手として活動を発展していくことも期待。

事業成果

大学のボランティアサークルや大学本体とのグループ事業は、まとまった人数で活動するため、地域側にとって作

業成果が期待でき好評だった。23年になり、コロナ以前に取り組んでいた国際ワークキャンプが復活。地域側にとってもハードな森林保全作業のため、海外からボランティアが参加することは、大きなモチベーションに繋がった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍の中、細心の注意をはらいながら実施した。たくさんの若者が来てくれると作業も進み、パワーをもらえる。ありがたい。(富田林の自然を守る会会員)
- ・外国人参加者と楽しく活動できた。交流できた地元の人たちも楽しんでいたようで良かった。(白神山地を守る会)

参加者の声

- ・同じ年代のメンバーとの共同生活、森の重要性を学び活動できたことは、本当に楽しかった。コロナでなかったとしても学校では学べない。少しでも森林保全に貢献できたと思えたらうれしくなった。(栃木youth参加者)



白神山地の森林整備(青森県鰺ヶ沢町)



湯ノ岳の森林整備(福島県いわき市)



竹林整備(栃木県茂木町)



里山の保全活動に参加したみなさん(大阪府富田林市)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積: 0.5ha
植付本数: 150本
下刈面積: 1.1ha
除伐面積: 1.6ha
間伐面積: 1.5ha
子ども自然体験キャンプ

参加者数

県内: 50人
県外: 80人
計: 130人

樹種

ブナ、イタヤカエデ、ミズナラ

若者達が多世代を繋ぐ持続可能な里山再生事業

神奈川県二宮町、大井町



事業概要

風水害で崩落がみられる里山を再生、光と風が入り、土壌環境の良い植生の根が張れる健康な森を作り、若者が専門家に学びながら技術、知識を身に付けることで子どもたちを真ん中に据えた啓発事業を並行して行い、多世代参画の持続可能な仕組みづくりに寄与する。活動内容は、①川勾天山や吾妻山東西谷戸の山林について、若者を中心とした住民が林業専門家の指導を受けながら、竹林整備、間伐、高所伐採、下刈りを行い山林環境の改善を行った。②大地再生講座を行うことで土中の水の流れを学び、土砂崩れのリスクや対策を学んだ。

事業成果

本事業では500人の子どもから大人までが参加。地主、地域住民、行政の信頼を得て吾妻山山麓の名跡知足寺の理解を得て踏査にかかり、整備計画を策定し、事業化することができた。若者たちはすでに専門家の助手として町外の山

林地域で助手を務められるようになった。大井町の森林整備では林業専門家の指導受けながら、若者たちが主体的に作業を進めた。さらに、地域の若者が自然のレジリエンスを学び、防災、減災の実践的技術を身に着ける山林整備事業の価値を大きく確認できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちが入れる森が増えてうれしい。貴重な学びを幅広い家庭の子どもたちとニーズの強い親子支援の場にしていきたい。土に触れ土壌について分かる、知る動きをしっかりと進めたい。(教育委員)

参加者の声

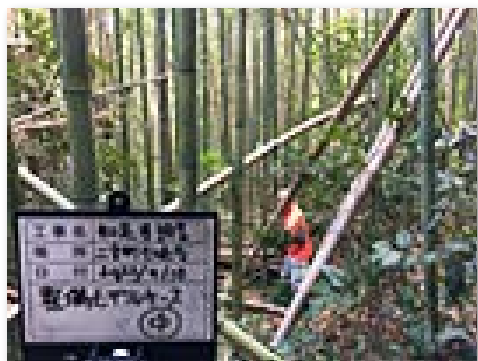
- ・吾妻山の本当の姿を知った。山林整備作業は自分にとって大きな学びだった。道具を使うこと、安全のための精密な段取り、チームワーク、生きることの学びに満ちていた。世界の学びに直結するSDGs教材といえる。学校教育と連動したい。(大学生)



高所伐採 (川勾地区 山林整備)



竹炭づくり (川勾地区 山林整備)



タケの間伐 (知足寺 モデルエリアづくり)



安全講習 (知足寺 森林整備)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.0ha

除伐面積：1.8ha

間伐面積：1.8ha

森林資源活用：

薪、竹炭、ホダ木

参加者数

計：500人

森と生きるキャリア研修 in 佐渡島

新潟県佐渡市



事業概要

中高生と、ひきこもり・障害を持つ社会的弱者や青少年たちが、厳しい社会・経済状況や災害時に「生き抜く力」を身につけながら、持続可能な社会をつくる重要なメンバーとして社会参加・社会貢献するSDGsモデルを構築する。活動は、①バイオマスを活用したエネルギー資源創り、地域循環共生圏の重要な担い手として活躍するための人材育成研修、少人数制研修の実施。②グリーンジョブ・ボランティアを創出のため、中高生・社会的弱者などの青少年を対象とした、エンパワーメント・環境教育の実施。

事業成果

研修には延べ308名が参加し、青少年が本格的な経験を積むことができる人材育成研修を実施できた。また、ツリーハウス骨組み部分とジップラインを作成できた。社会的弱者を理解しつつ指導できる林業・ツリーハウス専門家と障がい者支援に関わる専門家・職員のネットワークが、組織

を超えて横繫ぎに構築できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・障害を持つ青年たちは、大変楽しみにして参加しており、自尊心や自信、作業能力が高まった。ASDなどの障害を持つ青年の協調性も高まった。精神・体力面で大きな効果を感じたので、研修の日数を増やしていただきたい。(就労支援施設チャレンジド立野代表)
- ・他団体や、新潟など佐渡島島外の指導者との協働は、今までの視点や切り口とは異なる障がい者支援のあり方を考え、トライすることができた。林業などの専門家と自分たちのような障がい者支援が協働することの可能性は大きいと思う。(就労支援施設あんの家職員)

参加者の声

- ・特別支援学校の生徒たちが広々とした自然の中で遊び、イキイキとした表情を見せてくれたのにはとても感動した。またぜひ実施してほしい。(佐渡特別支援学校教師)



森林整備



薪づくり



ツリーハウス用に木を伐倒後、皮むきを実施



ツリーハウスの骨組み(左)、完成したジップライン(右)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
植付本数：30本
樹勢回復：1本
下刈面積：0.6ha
除伐面積：0.7ha
間伐面積：0.7ha
森林資源活用：20日
森と生きるキャリア研修：

45日

参加者数

県内：238人
県外：70人
計：308人

樹種

ヤマザクラ

大学生による森林・竹林整備

京都府京都市、南丹市、京田辺市、宇治田原町



事業概要

森づくりから木工品、炭づくりまでの木質資源の循環利用を普及させ、当大学を日本一森林に関心を持つ学生が多い大学にすることを目指す。主な活動は以下のとおり。①大学が所有する大枝演習林において、主伐木の成長を阻害する樹木の下刈り・伐採、②三山木・宇治田原の竹林における健全な竹林維持のためのタケ刈、③伐採したタケが持続資源として有効活用できることを周知、また、実際に持続資源にするための炭焼き活動。

事業成果

大枝演習林における下刈りによって、ツタ類を除去した上、異常繁茂したソヨゴを除伐することによって稚樹の健全な育成に貢献することができた。三山木竹林活動なら

びに宇治田原竹林活動では竹林の整備を行った上で、伐採後のタケの有効的な利用法を考えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年度の活動を通して森林整備事業を学生の皆さんにはより身近に感じてもらえたと思う。一方で学生活動の弱点でもあるが、世代間での引継ぎが上手くいかないと長期的活動を見据えることができないので、次世代の育成により尽力してもらいたい。(演習林職員)

参加者の声

- ・下刈りの活動は成果が目に見えるので気持ちが良い。(3回生)
- ・活動場所は思っていたより急な斜面だったが、活動を経て比較的スムーズに登れるようになった。(1回生)



6名で下刈り作業を実施



急傾斜地で間伐作業



竹林整備



総勢16名でタケノコ掘り

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.8ha
除伐面積：0.8ha
間伐本数：38本
森林資源活用：0.44ha
炭焼き合宿、希少種観察

参加者数

県内：92人
計：92人

次世代と共につくる里山と菊炭の未来 2022

大阪府能勢町、池田市



事業概要

里山保全に重要な地域固有の製炭業（菊炭）が放置林や獣害で衰退している。この課題解決に次世代とともに取り組み、植樹を通じて次世代が継続的に関わる持続可能な里山を目指す。

次世代の森づくりを意識し、地元や近隣の高校生大学生の参加を積極的に働きかけ、菊炭窯の見学や里山見学会、里山管理作業体験等を実施。近隣市の小学校への里山出前講座や園芸高校の里山学習の受け入れは定着しつつある。今年度は安全な里山管理作業のために労基法に基づく機材の取扱講習会を実施。

事業成果

植樹会では植樹苗の半数を園芸高校の苗を用いることができた。地元高校生徒の提案で海外留学生の菊炭窯見学会を実施したことにより、留学生たちは自主的に植樹会にも参加された。日本の森林保全活動への関心が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林現場の事故を防ぐためにも刈払機の安全な利用は基本。グループ活動で1人が適正に使えばその周りの人間もおのずと注意するようになる。（安全講習会講師）
- ・森林保全の取り組みは実際の現場に行かなければ分からない。（高校教師）
- ・小学校の園庭に植えて育ったクヌギを里山に植樹する、という取り組みは子どもたちにとって大きな経験。今後も取り組んでいきたい。（小学校教師）

参加者の声

- ・刈払機講習で機材と安全な使い方を学べた。自分や他者の身を守るために講習会は絶対必要だ。（森林ボランティア）
- ・自然の中にいると気持ちが良くなる。（植樹会参加者）
- ・自然は言葉や国籍を超えて人々を結びつける力がある。植樹会で目を見張るような経験ができた。（留学生）



高校生を対象とした里山研修



ドングリのポット苗づくり（小学校出前講座）



刈払機についての安全講習（里山作業安全講習会）



クヌギを植樹（菊炭と里山を未来に繋ぐ植樹会）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.22ha
 植付本数：580本
 除伐面積：0.05ha
 製炭学習、里山見学、里山管理作業・安全講習会、木工クラフトほか

参加者数

県内：259人
 県外：21人
 計：280人

樹種

クヌギ

森づくりを目指す若きリーダー養成事業

鳥取県、徳島県、高知県高知市、室戸市、四万十市、香南市、香美市、馬路村、四万十町、三原村



事業概要

高知県の豊かな森林資源を適切に管理し、将来に引き継いでいくために若きリーダーの養成を目指す。主な活動は、大学生を中心とした若者を対象に、森づくりに関する基本的な知識の学習や、チェーンソー等を使った人工林・竹林整備の実践研修のほか、様々な森づくり、地域づくりに関する先進事例の視察研修、民間企業や行政の森づくり活動に関する取り組み等を学ぶための研修事業を実施した。

事業成果

森林整備や環境問題に関心を持つ大学生や地域づくり活動に携わる若者、林業家を目指す若者などが養成講座を受講し、森づくりへの関心がより高まり、各自の更なる取り組みに繋がっていった。また、コロナ禍で低迷していた、こうち森林救援隊の定例会活動の充実に繋がったほか、行政や民間企業、他のボランティア団体との新たな繋がりも構築できた。

事業をよく知る関係者の声

高知県の広大な森林資源を健全な形で管理し、後世に引き継いでいくためには、川上から川下までが連携した様々な取り組みが重要と感じた。今回の研修事業を通じて多くの若者が森づくりに関心を持ち、積極的に活動に参加してもらえたことは大変に意義がある。今後も引き続き1人でも多くの若者が森づくりの活動に参加する機会が確保されると同時に、こうした事業を応援する企業も増えていくことを期待している。(協賛企業四国銀行地域振興部部長)

参加者の声

- ・チェーンソーを使っの伐採作業は貴重な体験になった。
- ・林業だけでなく、森づくりや地域おこし等の様々な取り組みについて幅広く学習できたことが良かった。
- ・研修事業の継続実施を期待する。
- ・スケジュールが合わず、なかなか研修に参加できなかったのが残念。



森林の課題を学ぶ座学講座



除間伐体験



竹林整備



受講者と講師、応援の方々、事務局のみなさん

実績とりまとめ

作業内容

森づくりの若きリーダー養成
講座：21回

参加者数

県内：336人
計：336人

